

競 技 注 意 事 項

1 競技規則について

本大会は、2024年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項によって行う。
また、本大会をWRkの対象競技会とする。（ただし、リレー競技と投てき競技を除く）

2 練習について

- (1) 練習は、指定された練習場所・日程を＜練習会場日程＞で確認して実施すること。
- (2) 練習会場競技役員の指示により安全に留意して行うこと。
- (3) 練習時間・練習場所については、天候の状況によって変更や制限をする場合がある。
- (4) 練習会場には、投てき物は用意していないので各自のものを使用すること。また、投てき種目の練習は当該チームのコーチの指導の下、担当競技役員の指示に従って安全に留意して実施すること。

3 招集について

- (1) 招集所は、競技場第2ゲート側バックスタンド内通路に設ける。
- (2) 招集開始時刻を点呼開始時刻、招集完了時刻を移動開始時刻とし、招集時刻は競技時刻を基準に、下記のとおりとする。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック種目	競技開始25分前	競技開始15分前
フィールド種目（跳躍・投てき）	競技開始50分前	競技開始40分前
フィールド種目（棒高跳・ハンマー投）	競技開始70分前	競技開始60分前

※棒高跳・ハンマー投の招集は、当該競技場所で行う。点呼終了後から順次練習ができる。

公式練習は、当該競技役員の指示により行うこと。

- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を欠場したものとして処理する。
- (4) 招集の手順
 - ① 競技者は、招集開始時刻までに招集所で待機し、競技者係の点呼を受ける。その際、競技者係にアスリートビブス・競技用靴・スパイク・競技場で着用する衣類・持ち物等の確認を受ける。その際、トラック競技の競技者のみ腰ナンバー標識（2枚）を受け取る。
 - ② ビデオ・ラジオ・CD・トランシーバー・携帯電話もしくは類似の機器等を競技場内に持ち込むことができない。（TR6.3）
 - ③ 招集所は当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
 - ④ 代理人による招集の最終確認は認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、最初の種目の招集開始時刻前までに『2種目同時出場届』を本人または代理人が競技者係（招集所）に提出すること。
 - ⑤ リレー競技に出場するチームは、競技者係（招集所）でオーダー用紙を受け取り、招集完了時刻の60分前までにオーダーを記入し、競技者係に提出すること。オーダー用紙提出後の内容変更は、主催者が任命した医務員あるいは総務の判断がなければ認められない。
 - ⑥ 出場種目を欠場する場合は、招集所で『欠場届』を受け取り、招集開始時刻までに競技者係（招集所）に『欠場届』を提出すること。

※2種目同時出場届・欠場届・リレーオーダー用紙は招集所に用意している。

4 競技について

- (1) 当該種目出場の競技者以外は、競技場内に立ち入ることはできない。
- (2) 短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。

- (3) スタートについては、1 度の不正スタートでその責任を有する競技者は失格とする。
また、2024年度ルールに準ずる。
- (4) トラック競技では、すべて写真判定装置（全自動電気計時）を使用する。
- (5) トラック競技において、欠場者のレーンはそのまま空けて行う。
- (6) トラック競技の判定は、全て写真判定装置（全自動電気計時 1/1000）で行う。
- (7) 4×100m リレーの第2・第3・第4走者は、主催者が用意するマーカー（1カ所）を使用する。
マーカーは招集所に用意しているものを使用すること。そのマーカー以外は使用してはならない。
- (8) 4×400m リレーの第3・第4走者のバトンの受け渡しは、コーナートップ順に内側より並ぶこと。
コーナートップとは、第3コーナー内側に示された黄色旗を通過した時点のことである。この後は、並んだ順序を変えてはならない。
なお、次走者は、テークオーバーゾーンの内側より走り出さなければならない。
- (9) リレー競技に出場するチームは、同一デザインのユニフォームを着用すること。
- (10) フィールド競技における競技場内での練習は、競技役員の指示により行う。
公式練習は、2回とする。
- (11) フィールド競技は、走高跳を除いて主催者が用意したマーカーを置くことができる。跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側（走高跳では助走路内）に2カ所置くことができる。サークルで実施する投てき競技では、マーカーを1カ所置くことができる。そのマーカーはサークルの直後あるいはサークルに接して置くこと。使用するマーカーは競技役員が現地で渡す。そのマーカー以外は使用してはいけない。
ただし、走高跳のマーカーは、各自が用意したもの（粘着テープ）とする。
なお、使用したマーカーは、競技終了後、各自で回収すること。
- (12) 棒高跳の支柱移動申請については、点呼時に口頭で当該競技役員に伝え、それ以降に支柱の位置を変更したい場合は、支柱がセットされる前に当該競技役員に申し出ること。
- (13) 三段跳の踏切板は、男子11m、女子9mの地点に設置する。
- (14) 競技者に対する競技場内での助力は禁止とするが、助言については、コーチングエリアで行うことができる。TR6.4.5は、バックスタンドとサイドスタンドのコーチングエリアのみ適応とし、競技者が録画機器等を手に持って画像を確認することができる。（メインスタンドは禁止する）
なお、文書をもって連絡することや競技者が当該競技場所を無断で離れることはできない。
- (15) フィールド競技における競技中の競技者への水分、氷などは、当該競技役員あるいはマーシャルを通じて競技者に渡すことができる。

5 競技用シューズについて

- (1) シューズとは、スパイク・ランニングシューズを含むものである。
- (2) スパイクの長さは9mmをこえてはならない。また、走高跳およびやり投の場合は12mmを超えてはならない。これらのスパイクの直径は、先端が4mm以内でなければならない。また、スパイクの数は11本以内とする。
- (3) シューズの靴底の厚さは、トラック競技における800m未満の種目（ハードル種目を含む）は、20mm以下、800m以上の種目（3000m障害を含む）は、25mm以下とする。
ただし、競歩については40mm以下とする。
フィールド競技については、三段跳は、25mm以下とし、それ以外の種目は、20mm以下とする。

6 抗議と上訴について

- (1) 競技中に起きた競技者の結果または行為に関する抗議は、その種目の結果が正式発表（大型映像表示終了時刻を基準とする）されてから30分以内、同一日に次のラウンドが行われる種目では15分以内に抗議者は、抗議担当総務員（メイン競技場 第1会議室）に申し出て、当該審判長に対して口頭でなされなければならない。
- (2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。審判長裁定を不服としてさらに上訴する場合は、各

校顧問・コーチまたは当該競技者自身により、預託金 10,000 円を添えて「上訴申立書」を抗議担当総務員を通して Jury に提出しなければならない。

なお、「上訴申立書」の提出時刻は、審判長による説明から 30 分以内（同一日に次のラウンドが行われる種目では 15 分以内とする）また、Jury の裁定後に新たな変更可能な決定的証拠が提示された場合は、裁定を再考してもよいが、それ以外の場合では、Jury の裁定に従わなければならない。

7 アスリートビブスについて

アスリートビブスは、指定された大きさ（縦 16 cm 以内×横 24 cm 以内）で、ユニフォームの胸部と背部に付けること。折り曲げたり、汚したりしないこと。

ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでもよい。またトラック競技者は写真判定用の腰ナンバー標識を招集所で受け取り、パンツの左右後方に付けること。

3000m 以上の種目と 4×400mR の第 2、第 3 走者は、別ナンバーカードを使用する。別ナンバーカードについては、招集所にて配布する。

8 競技場の中に商品名のついた衣類・バッグ類を持ち込む場合について

- (1) 日本陸上競技連盟「競技会における広告および展示物に関する規定」を適用する。
- (2) 競技役員に指摘された場合は、その指示に従うこと。
- (3) 競技者が使用する医療用テープまたは一般的なテープは、無地に限る。どちらのテープにおいても商品名・ロゴが記載されたテープを使用する場合は、大会主催者の書面での承認が必要である。

9 競技の抽選ならびに番組編成について

- (1) 予選におけるトラック競技のレーン順、ならびに跳躍・投てき競技の試技順は、プログラム記載の左側に示された番号順とする。
- (2) トラック競技の決勝については、主催者がルールに則り、レーン順を決定する。その結果を大型映像により発表する。
- (3) トラック競技において次のラウンドへの出場者を決める際、その最下位で同タイムがでた場合（以下同タイム者という）判定写真を細部(1/1000 秒)まで拡大し、着差を判定する。それでも判定できない場合は下記の方法で決める。
 - ① 100m・200m・400m・800m・100mH・110mH・400mH の場合、同タイム者については、レーンに余裕がある限り次のラウンドへ進むことができる。レーンに余裕のない場合は、同タイム者、または代理人によって抽選する。
 - ② ①以外の種目の場合
同タイム者については、すべて次のラウンドに進めることとする。

10 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は主催者が用意した物を使用しなければならない。ただし、やりは検査において合格したものに限り使用が認められる。やりの検査は、招集開始時刻 60 分前から招集開始時刻までに競技場第 I ゲート付近で行う。検査に合格したやりは、一括借り上げし、参加競技者で共有できるものとする。借り上げたやりは、その競技終了後、競技場第 1 ゲート付近で返却する。なお、借り上げたやりが破損しても責任を負わない。
また、個人所有のボールの検査は、最終点呼時に跳躍審判が行う。
- (2) 練習用として個人の用具は競技場に持ち込んで서는ならない。

11 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方

走高跳	男子	1m60	1m75	1m85(練習)	1m65	1m70	1m75	1m78	1m81	以降 3cm
-----	----	------	------	----------	------	------	------	------	------	--------

走高跳	女子	1m35	1m45	1m55(練習)	1m40	1m45	1m48	1m51	1m54	以降	3cm
棒高跳	男子	3m20	4m00	4m40(練習)	3m30	3m50	3m70	3m90	4m00	以降	10cm
	女子	2m00	2m60	3m40(練習)	2m20	2m40	2m60	2m80	3m00	以降	10cm

※ 棒高跳の練習はゴムバーを使用する。

- (1) 走高跳・棒高跳の決勝で最後の一人になり優勝者が決まるまで、上記のバーの上げ方とする。
- (2) 第1位が同成績の場合、順位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm単位とする。

12 競技場の入退場について

- (1) トラック競技の競技者の入退場は、マーシャルの指示に従うこと。
- (2) フィールド競技の競技者は、当該競技役員およびマーシャルの指示に従って入退場する。
- (3) フィールド競技の入賞者は当該競技役員が、トラック競技の入賞者はマーシャルが表彰者控所に誘導する。

13 表彰について

- (1) 各種目第3位までの入賞者には、賞状を授与する。チームジャージやチームシャツで表彰を受けること。その際、入賞者は決勝終了後入賞者控場所（中央エントランス内）で待機し、係員の指示を受けること。
- (2) 競技終了後に男女の最優秀選手の表彰を行う。

14 その他

- (1) 大会期間中競技場で発生した傷害や疾病は、メインスタンド下の医務室で応急処置を行うが、その後の責任は負わない。なお、参加者は健康保険証を持参すること。
- (2) 更衣は、メイン競技場1階更衣室及び補助競技場の男子・女子更衣室を使用することができる。ただし、貴重品は各自で保管し、盗難防止に努めること。
- (3) 記録証の交付を希望する競技者は、メイン競技場1階(第1会議室)の総務員に記録証交付願および交付料金 500円を添えて申し込むこと。
- (4) 記録は競技終了後、大型映像で表示する。決勝のスタートリストについても大型映像で発表する。記録表示板は設置しない。
なお、記録の速報を愛媛陸協ホームページで確認することができる。
- (5) 横断幕等は、バックスタンド2階通路より上部及びサイドスタンド最上段に設置することができる。ただし、個人名入りの横断幕等は禁止する。
- (6) 集団での連呼応援はメインスタンドでは禁止とし、フィールド種目の妨げにならないようにすること。
なおフィールド競技が行われている場合、集団での応援行為(連呼応援や応援歌唱など)は禁止する。
- (7) メイン競技場内のメインスタンドでのテント設営は禁止する。
- (8) 迷惑行為および盗撮等は犯罪であるので、発見した場合は速やかに本部役員(第1会議室)まで連絡すること。
- (9) その他、詳細については監督会議で説明する。

※ 届出用紙は以下の場所に用意してある。

- ・ 2種目同時出場申請書・欠場届・リレーオーダー用紙・・・競技者係（招集所）
- ・ 記録証明書交付願・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総務員（第1会議室）
- ・ 抗議申立書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・抗議担当総務員（第1会議室）

＜練習会場日程＞

- (1) 下記の表の内容を確認の上、安全に留意して実施すること。
- (2) メイン競技場・補助競技場のトラックでの逆走は禁止する。

1 メイン競技場

10月5日（土）	
<8:00～10:30> 【トラック競技】 1～2レーン・・・長距離（周回） 3～5レーン・・・スタート・リレー 6～7レーン・・・100H 8～9レーン・・・110H 水濠・・・3000mSC	<8:00～10:00> 【フィールド競技】 （跳躍種目） 男子棒高跳8:00～9:00 女子棒高跳9:00～9:50 男女三段跳8:00～10:00 （投てき種目） 招集完了後の現地練習のみ
10月6日（日）	
<7:30～9:00> 【トラック競技】 1～2レーン・・・長距離（周回） 3～5レーン・・・スタート・リレー 6～7レーン・・・女子400mH(3台目まで) 8～9レーン・・・男子400mH(3台目まで)	<7:30～9:00> 【フィールド競技】 （跳躍種目） 男女走高跳7:30～9:00 男女走幅跳7:30～9:00 （投てき種目） 招集完了後の現地練習のみ

2 補助競技場（やり投については助走練習のみとする）

10月5日（土）	
<7:30～18:00> 【トラック競技】 1～2レーン・・・長距離（周回） 3～5レーン・・・スタート・リレー 7～8レーン・・・100H 10～11レーン・・・110H	<7:30～18:00> 【フィールド競技】※優先種目 （跳躍種目） 男子三段跳7:30～10:10 女子三段跳10:10～12:40
10月6日（日）	
<7:30～15:00> 【トラック競技】 1～2レーン・・・長距離（周回） 3～5レーン・・・コーナースタート 7～8レーン・・・100H 10～11レーン・・・110H	<7:30～15:00> 【フィールド競技】 （跳躍種目） 女子走高跳7:30～9:10 男子走高跳9:10～11:20 男子走幅跳7:30～9:10 女子走幅跳9:10～11:20 （投てき種目） 女子砲丸投7:30～8:40 男子砲丸投8:40～10:10

3 多目的広場

- (1) 円盤投・砲丸投（回転投法）の投てき練習、やり投げの突き刺し練習ができる。
 なお、円盤投については下記の要領で立ち投げおよびターン練習ができる。

① 立ち投げエリアで実施することができる。

- ② 立ち投げ用サークルで立ち投げのみの投てき練習ができる
 - ③ ターン練習用サークルで基本練習ができる。（投てき物を持つことはできるが、投てき練習はできない。）
- (2) メディシンボール・ラダー・ミニハードルを用いた練習を行うことができる。周囲の状況を把握し、安全に留意して行うこと。

4 雨天練習場

- (1) 雨天練習場内でのピストル（雷管）の使用は禁止する。
- (2) 雨天練習場へは、第2ゲート側の入口より入場することができる。第3ゲート側からの入場を禁止する。
- (3) シート・マットを敷いて独占的な使用を禁止する。
- (4) ジョギング等のウォーミングアップまたは動きづくりは行ってもよいが、それ以外は、補助競技場等、他の練習会場で行うこと。また、ジョギング等は左回りとし、逆走は禁止する。
- (5) ハードル・ミニハードル・ラダー等、個人の練習用具を持ち込んではいけない。